

環境経営の強化

富士通本体と国内グループ97社、約10万人を対象とする環境マネジメントシステムの統合認証を取得しました。

第4期環境行動計画目標

環境マネジメントシステムに基づく環境経営の枠組みを、2005年度末までにグループ全社で確立する

2004年度の実績

国内グループ会社97社を対象とし、グループ統合認証取得

「富士通グループ環境マネジメントシステム」の構築をめざして

富士通グループは、環境経営の強化に向けて、以下の3つの目標の実現をめざしています。

事業構造の変化を背景に、グループ会社の活動による環境負荷の比率が高まってきたことから、富士通だけでなく、グループ会社全体を視野に入れたガバナンスを強化していく。

グループ会社を包含する体系的な環境活動を推進していくことで、富士通グループの社員一人ひとりの環境問題に対する認識を高める。

「第4期富士通グループ環境行動計画」の作成のプロセス、各社への展開、実運用を第三者の視点からチェックできるよう、環境活動の透明性を高める。

これらを実現するために「第4期富士通グループ環境行動計画」において「環境マネジメントシステムに基づく環境経営の枠組みを、2005年度末までにグループ全社で確立する」ことを目標としています。

2004年度は、「国内グループ会社を統合した環境マネジメントシステムを確立する」という年間目標を掲げ、活動を推進しました。

国内グループ統合認証を取得

2004年度は、2003年度に構築した富士通における環境マネジメントシステム(EMS)の仕組みを国内グループ会社に展開していきました。実施に際しては、EMSがまだ構築されていないグループ会社のマネジメントシステムの構築を進める

とともに、すでに構築されている各社ごとの独自のEMSを活かしながら、富士通とグループ会社間のインターフェースを構築しました。これにより、国内の富士通グループ全体を対象としたPDCAサイクルの仕組みを確立しました。そして2005年3月、既存の単独認証会社や新規対象会社を含めた97社と富士通本体を合わせ、約10万人を対象とするEMSの運用を開始するとともに、富士通グループの国内事業所を対象としたISO14001の統合認証を取得しました。

また、ITを活用した国内グループ全体での環境情報の共有化や、各工場間・グループ企業間での相互監査など、新たな環境マネジメントの取り組みを開始しました。

2005年度の重点施策と今後の活動方針

第4期環境行動計画のテーマ「環境経営の強化」に関する2004年度の成果

を踏まえて、経営会議では、2005年度の重点取り組み課題として以下の項目を推進していくことを決定しました。

「環境貢献ソリューションビジネス」

「スーパーグリーン製品の開発・供給」の強化

環境リスクの回避

地球温暖化問題への対応強化

ビジネス上のマネジメント体系(ライン)に基づくグループ会社の管理強化

さらに、2005年度は「環境マネジメントシステムに基づく環境経営の仕組みを、2005年度末までにグループ全社で確立する」ことをめざして、海外グループ会社を含めたEMSの構築を推進していきます。これによって、各組織の事業活動に伴う取り組みを強化し、富士通グループ全体の環境負荷の低減を図るとともに、お客さま先や社会全体での環境負荷の低減や環境効率の向上に寄与していきます。

グループ統合認証主任審査員コメント



株式会社 日本環境認証機構 (JACO)
国際認証センタ長
小川 隆雄

富士通本体と関連会社97社を統合し、10万2千人からなるグループ統合環境マネジメントシステムを構築したことは、画期的な取り組みと評価いたします。とくに環境経営の理念をビジネスグループごとにブレイクダウンし、行動目標として浸透させたことは、本業と環境目標の一体化によるさらなる環境改善効果が期待されます。審査チームは、統合システムが有効に機能

し、企業グループの経営に寄与する取り組みであることを4カ月わたる審査で確認いたしました。

巨大なシステムの実現は、グループ統合マニュアルの浸透、統合共通目標の設定、全サイトの統合内部監査の実施、e-learningによる教育の徹底などグループガバナンスによるところが大きかったと思います。

このような統合システムは一朝一夕で実現するものではありません。今後はさらなるIT技術の活用や全員参加による環境マネジメントを推進することで、統合システムをめざす他の企業グループのモデルとして業界をリードされることを期待しています。